

特別教授講演会 大成功の裏側でキラリ



教職員インタビュー

イベント運営・広報を学び実践した 若手職員プロジェクトチーム

10月5日(月)、世間が2年連続の日本人ノーベル賞受賞の報に沸くまさにその時間、豊中キャンパスの大阪大学会館は、超満員の聴衆であふれていました。その日、そこで行われていたのは、「石黒浩特別教授講演会」。学生を中心に約800名が参加した大成功と言っているイベントの裏側では、この講演会を研修素材として、イベント運営、イベント広報のノウハウを実践的に学ぶ9名の若手職員の姿がありました。

平成27年度 大阪大学イベント運営企画実践型実務者研修
受講者(五十音順)
太田雅之/加賀涼子/田中綾/永見一彰/西林真司/原田慧/南岡宏樹/山岡史考/山西恵理子

研修参加者が運営方法や学内外への広報戦略を計画し、講演会の運営を通じて、企画力、折衝力、俯瞰力を身に付けることを目的に実施。アウトリーチ活動に詳しいURA等から運営やイベント広報戦略などの講義を受講後、メンバー間での議論や関係者との折衝等を重ね、講演会プロジェクトとして活動し実践的に学んだ。

受講生は3か月間の研修で何を学び、この講演会のために何を工夫し挑戦したのか、伺いました。

今回の研修で、一番得たものは何でしたか？

いかにターゲットを絞って広報活動を行うかの重要性ですね。仕事を何とか前に進めていく自信もついたように思います。

座学で学んだことを実践する中で、最も難しいと感じたのはどんなことでしたか？

時間が限られている中で、チームで共通の意思をもって進める必要があるため、自分の考えをはっきりと言いつつ、メンバー間でも調整し、まとめているところが難しいと感じました。

今回学んだ内容で、他の部署の方にもお薦めしたいイベント運営、イベント広報のコツ等があれば教えてください。

twitterの学生からの反応は想像以上でした。上手く使えば、学生が対象のイベントの広報には効果があると思います。

あと、やはり、誰に何を提供して、どのような反応をしてほしいか、コンセプトを明確にしてから取り組むと企画がブレないと思います。そのコンセプトを共有して、受け身ではなく、能動的に動けるメンバーであるというのも、成功の要因だと思います。



具体的にどのように進めましたか？

コンセプトを決めるところまでが、一番時間がかかりました。全員で何度も納得するまで話し合いました。「学生に来てもらいたい」「そのためには、石黒先生に今回の講演会でしか聞けない話をしてもらわないといけない」といった内容をコンセプトシートにまとめて全員で共有しました。そこからは、運営担当や広報担当などそれぞれ役割分担を決めて、それぞれが自立的に動いていきました。

広報担当では、イベント公式facebookやtwitterを立ち上げたり、ポスター、O+PUS動画もクリエイティブユニットの皆さんに協力していただいて制作しました。今回のポスターのコピーになっている「石黒浩の視界」は、コンセプトをもとにクリエイティブユニットの皆さんとの打ち合わせの中で出てきたキャッチフレーズで、そのフレーズに沿ってクオリティの高いものを作っていました。あとは、情報共有を綿密に行うように各自気を付けて、アイデアを出し合いながら進めていきました。

「この研修がなかったら、これはできなかった！」があれば教えてください。

満員の大学会館での司会や、石黒特別教授と直接交渉すること、西尾総長へのレクに入ることもできなかったと思います。

研修全般についての感想を。どんなことでも結構です！

開演前の来場者の列を見て心底ほっとしました。講演会を一つとっても、裏ではいかに多くの業務があるのか身に染みましたね。今回のメンバーとの繋がりができたのも良かったです！



実際の講演会を研修素材にするという珍しい研修を企画した、未来戦略支援事務室の佐々木室長と担当の岸本室長補佐に伺いました。

この研修を企画した狙いは何ですか？

イベントは、大学の研究や教育の取組をPRするために欠かせないものですが、そのノウハウや広報の考え方等を学ぶ場はほとんどありません。そこでうち(未来戦略機構主催)のイベントを素材に実践の学びの場を作れないかと企画しました。

受講者の様子はどうでしたか？

やる気のある若手の9名の職員が受講してくれて、『失敗してもいい』と伝えていましたが、責任を持って最後までやりきってくれました。悪く言えば放任ですが、口を出したいのをグッと堪えて、こちらは見守ることに徹しました。

この3か月の間で、当初研修を受講しているという、どちらかと言うと受け身だった彼らの姿勢が、石黒教授との打ち合わせを重ねたり、本番が近付いて準備していくにつれ、発言に責任感が増していき、顔つきも変わっていきました。終了後のメンバーの第一声が『ホっとした』だったところにも、彼らが自分事として講演会を成功させようといかに必死だったかが表れていると思います。研修の主催者としても、大変満足のいく結果でした。

また私がPMT(現・総長室プロジェクトマネジメントチーム)在籍時に体験した「答えのない課題に対し、メンバーで議論し考え、それを実践する」という良い経験を、今回の研修受講者には凝縮した形で経験させてあげられたかなとも感じています。彼らが今回の経験を次に繋げてくれることを期待しています。